

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0772700266		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	グループホーム かりん		
所在地	〒969-6254 福島県大沼郡会津美里町荻窪字上野185番地 (電話) 0242-54-7900		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年1月7日

【情報提供票より】 (平成19年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	12年	4月	1日			
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9	人			
職員数	7人	常勤	7人,	非常勤	0人,	常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000	円	その他の経費(月額)	0	円	
敷金	有()	円	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()	円	有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり	900	円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	3名	要介護2			2名	
要介護3	3名	要介護4			1名	
要介護5	0名	要支援2			0名	
年齢	平均	86歳	最低	78歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高田厚生病院、水口歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近年新設されたグループホームが多い中において、開設以来8年目(県内では3番目に設立)のホームである。管理者はグループホーム協議会の役員を務め、精力的に活動に取り組んでいる。各種研修会では活動報告を行い、また、他のホームからの視察研修を受け入れ、今までの経験をしてきたことを広く伝達しながら、更にサービスの質の向上に努めている。利用者は女性だけであるが、男性職員が利用者同士や職員間の潤滑油となっており、職員のチームワークの良さが感じられ、職員も利用者も皆明るく、共に生活を楽しんでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 毎回評価結果を全職員で話し合い、検討し改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の重要性を職員全員が理解しており、今回も全職員で自己評価を行った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は地域住民の代表や地域包括支援センター職員、利用者の家族等で構成され、ホームの行事・利用者の状況等に関しての内容で開催してきた。最初は参加者から運営推進会議の意義についての疑問もあったが、回を重ねるごとに理解が深まり、今後は行事等の報告だけでなく、毎回テーマを決めて充実した会議とするよう現在検討している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月利用者の生活の様子や状況の報告をしており、面会時には家族の要望や意見を確認し、運営へ反映させている。現在の利用者は地域密着型サービス開始以前の利用者がほとんどで町内が2名、町外が7名となっている。遠方の家族もいるが面会には宿泊される方もおり、その際に十分話し合いを行い対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは近隣から離れた場所にあるが、地域の行事(お祭り、町の運動会、敬老会、文化祭等)には積極的に参加し交流しており、運営推進会議の開催により更に交流が深まってきている。特に文化祭には利用者の作品を出展しているため、毎年励みとなっており今回も出展している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で検討し、本年9月に地域密着型サービスに即した新しい理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	出入り口のみんなが見やすい場所に理念を掲示し、共有化をはかり実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りや運動会、文化祭など地域の行事に積極的に参加し、地域との交流に努めている。また、今後、地域での介護教室・認知症ケア教室等の開催を検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議等で評価の意義や、前回の評価での指摘事項について話し合い、全職員で改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年9月から2ヶ月に1度開催し、ホームの近況・行事や外部評価の報告等を行い、ホームとしての取り組みについての意見交換を行い、サービスの改善や質の向上に努めている。今後は毎回テーマを持った会議とすべく計画している。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族に個人別のお便り、近況写真、健康状態の記録等を送付し、利用者の状況を報告するとともに、面会時や電話連絡時など機会あるごとに報告している。また、「かりん便り」を作成し配付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や意見箱により意見の収集をしている。また、運営推進会議にも家族代表2名がメンバーとなっており、容易に意見や要望の収集ができるようになっている。また、利用者ごとの担当職員がおり、意見や要望等は運営やケアに反映させる体制になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の際には引き継ぎの時間を十分に取り、利用者とのコミュニケーションをはかり、馴染みの関係を作りながら交代するように努めている。また、異動した職員も時々来て交流している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、法人としての内部研修や連絡協議会主催の研修等の外部研修に計画的に参加している。また、職員の資格取得には支援体制ができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会等には順番に出席し、交流している。また、法人内のホームや近隣のホームとは密に交流し意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の習慣・行事や伝統的料理を教えてもらったり、得意な民謡を全員で合唱したり、共に支え合い生活することを大切に支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意思を大切にした介護計画の作成に努めており、利用者個々の希望・意向を職員で共有し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から本人の思いや状況を把握し、カンファレンスや機会あるごとに主治医、家族等との意見交換を実施し、その意見を介護計画に盛り込み介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画の見直しを実施しているが、状況等の変化があった場合はその都度カンファレンスやミーティングを通じ介護計画の見直しを実施している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き主治医を決定している。受診には家族の対応が原則であるが必要時には職員も同行し、主治医との連携をはかっている。又、遠方の家族の場合には職員が受診の対応をしており、結果をその都度家族に知らせている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として重度化や終末期の対応方針を定め、入居時に本人・家族の意向を聞いている。随時利用者の状況を家族へ連絡を取り対応しているが、現在まで該当者がいなかったため、「重度化や終末期の意志の確認書」の作成はしていない。		家族に再度「看取りに関する考え方」を説明し、重度化に伴う意志確認書等を早急に作成し、対応することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーの保護の意味を十分に理解し個人の尊厳に配慮し、優しい言葉かけや支援を実践している。また、利用者等に「個人情報使用に関わる同意書」について説明し、同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者一人ひとりの体調に気を配りながら見守り、利用者の意思を大切にしその日の予定を決定するなど、自己決定を重視し一人ひとりのペースに応じて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き、希望に沿ったメニューを作成している。職員は入居者と同じ食卓を囲み、一緒に食事を楽しんでいる。食事風景はとても和やかで職員と利用者の信頼関係がうかがわれ、ほほえましく感じた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて入浴の支援をしている。利用者の状態も入居当時より変化してきているので、状態に応じ安全に入浴できるように手すりや入浴台を新設し、対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者それぞれのできること・したいこと(調理、園芸、編み物、習字など)を把握し、希望に沿って支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	ホームの1日の流れはあるが、その日の利用者の希望により、散歩や買い物の支援をしている。季節によっては毎日花壇の手入れや野菜作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害を理解し、日中玄関は鍵を掛けていない。外出しそうなときはさりげない声かけや見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとに併設施設と一緒に避難訓練を実施している。また、毎月の職員会議で避難誘導訓練について毎回確認している。併設施設と共同で食料品の備蓄はされている。飲料水やコンロ、ガス等は独自に確保している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとの食事摂取量を記録しており、特に水分摂取量と排泄量を詳細に記録し、健康管理に役立てている。献立は1週間毎に作成し、併設施設の栄養士にチェックをしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く、食堂に続く和室も広く多目的空間となっており、利用者が自由にくつろげるようになっている。毎月利用者の作品（手芸、習字、貼り絵等）を飾り、季節感を出している。現在はクリスマスバージョンの貼り絵に取り組んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔で明るく快適に過ごせるよう造られており、利用者は使い慣れた家具・布団などを持ち込んだり、写真や自分の作品などを飾り、一人ひとり個性的な雰囲気の居室となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム かりん

記入担当者名 片山 玲子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。